

インフルエンザ予防接種についての説明書 (必ずお読みください)

◇インフルエンザとは…

インフルエンザ感染症と呼ばれ、毎年冬になると流行します。インフルエンザは感染力が非常に強く、他の風邪とは区別して考えられています。

◇感染して発病すると…

急激な発熱、悪寒、全身倦怠感、咳、鼻水、咽頭痛、頭痛、などいろいろな症状が出ます。

また、合併症として、肺炎、気管支炎、心筋炎を起こすことがあり、亡くられる方もあります。

特に高齢者のインフルエンザは肺炎が高い確率で起こると指摘されています。

最近、インフルエンザ流行期にみられる高齢者施設での死亡や、小さいお子さんの脳炎、脳症が問題となっております。

◇インフルエンザ HA ワクチンの接種効果

70%程度はインフルエンザにかからないか、かかっても重症になることを防止する効果があるとされています。昨年度、当院でも実施し効果がみられました。1回接種でも十分効果を得られますが、2回接種の方がより効果的となっています。なお、1回目の接種後、2回目の接種までに3週間程度、期間をおく必要があります。

◇インフルエンザ予防接種の副反応について

副反応としましては、まれにワクチンの接種直後から数日中に、発疹、じんましん、湿疹、多形紅斑、紅斑、かゆみなどがあらわれることがあります。全身症状として、発熱、悪寒、頭痛、倦怠感、一過性の意識消失、めまい、リンパ節腫脹、嘔吐、嘔気、下痢、関節痛、筋肉痛など、局所症状として、摂取部位に発赤、腫脹、硬結、熱感、疼痛、しびれ感などが認められることがありますが、いずれも通常2～3日間で消失します。

非常にまれですが、次のような重大な副反応がみられることがあります。①ショック、アナフィラキシー様症状(じんましん、呼吸困難、血管浮腫など)、②急性散在性脳脊髄炎(接種数日後から2週間以内の発熱、頭痛、けいれん、運動障害など)、③ギラン・バレー症候群(両手足のしびれ、歩行障害など)、④けいれん(熱性けいれんを含む)、⑤肝機能障害・黄疸、⑥ぜんそく発作

◇予防接種を受けるときの注意

①インフルエンザワクチンの必要性や副反応について不明な点がある場合は、予防接種を受ける前にお医者さんに相談しましょう。

②予防接種当日は入浴(またはシャワー)をして、体を清潔にしましょう。

- ③予防接種当日は体調をよく観察して、普段と変わったところのないことを確認してください。
- ④清潔な着衣を身につけましょう。
- ⑤予診票はお医者さんへの大切な情報です。正確に記入するようにしましょう。

◇予防接種を受けることができない人

- ①明らかに発熱のある人(37℃以上)
- ②重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
- ③過去にインフルエンザワクチンに含まれる成分で、アナフィラキシーを起こしたことがある人
(他の医薬品投与でアナフィラキシーを起こしたことがある人は、予防接種を受ける前に
お医者さんへその旨を伝え、判断を仰いでください)
- ④その他、お医者さんが予防接種を受けることが不相当と判断した人

◇予防接種を受ける際に、お医者さんとよく相談しなくてはならない人

- ①心臓病、じん臓病、肝臓病、血液の病気などの基礎疾患がある人
- ②発育が遅く、お医者さんや保健師さんの指導を継続して受けている人
- ③風邪のひきはじめと思われる人
- ④前回の予防接種を受けたときに、2日以内に発熱、発疹、じんましん等のアレルギーを疑う
症状がみられた人
- ⑤薬の投与または食事(鶏卵、鶏肉など)で皮膚に発疹が出たり、体に異常をきたしたことがある人
- ⑥いままでにけいれんを起こしたことがある人
- ⑦過去に免疫不全と診断されたことがある人
- ⑧家族、友人のあいだに麻しん(はしか)、風しん、おたふくかぜ、水痘(みずぼうそう)などの
病気が流行している時で、まだその病気にかかったことのない人
- ⑨妊娠の可能性のある人
- ⑩気管支喘息のある人

◇予防接種を受けた後の注意

- ①接種後30分は病院にいる等して様子を観察し、アレルギー反応などがあればお医者さんに
すぐ連絡を取れるようにしておきましょう。
- ②接種後24時間は、副反応の出現に注意しましょう。
- ③接種当日の入浴は差し支えありませんが、注射した部位をこすることはやめましょう。
- ④接種当日は接種部位を清潔に保ち、いつも通りの生活をしましょう。
- ⑤高熱やけいれんなどの異常な症状が出た場合は、速やかにお医者さんの診察を受けてください。